



学校だより

No.3 6月号

令和4年5月31日

横浜市立洋光台第四小学校

～ 手を取りあい ぐんぐんのびる しんめの子 ～

ホームページもご覧ください。www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai4

豊かな体験活動を通じた学び

副校長 藤田 敏明

この4月に洋光台第四小学校に着任しました藤田敏明と申します。よろしくお願いたします。

先日13日(金)、今年度最初の授業参観を行いました。新型コロナウイルスの流行が収まりつつあるとはいえ、まだ感染拡大防止対策を求められており、参観人数の制限や検温等、ご協力いただきながらの開催でしたが、ご参観いただいた保護者の皆様には、子どもたちが生き生きと活動する姿を見ていただけたのではないかと考えています。

本校では、普段の授業でも、友達や教師と穏やかに接し、めあてに向かって自分の考えを伝える子どもの姿を見る機会が多いと日々感じています。友達や教師の話をしっかり聞くだけでなく、活発に話し合う洋四小の子どもたちの姿にたくましさを感じ、嬉しく思います。昨年度から本校で研究し、大切にしてきた「特別活動」の取組の成果が表れているのではないかと考えています。今年度はさらに「話し合い活動」を充実させていくことを通して、「ともに考え ともにつくる子」の育成をめざしていこうと考えています。

さて、各学年、初夏に向け、本校敷地の恵まれた環境を生かして、さまざまな植物の栽培活動に取り組んでいます。2年生では生活科で、自分が選んだ野菜の栽培活動、3年生では総合的な学習の時間で、自分が選んだ花や、ダイズ、トマトづくりを通しての活動を行っています。5年生では総合的な学習の時間、また社会科の農業学習と関連しての米作り活動、6年生は理科学習の関連でジャガイモの栽培、個別級はナスやトマトなどの夏野菜の栽培をするなど、全学年、さまざまな栽培をしています。今まで勤めていた学校で、元農家の方から野菜作りのノウハウを教わり、その経験を生かして様々な学校で野菜作りに取り組んできた私は、職員室での仕事の合間、たびたび栽培園に行き、子どもたちの活動している様子や、野菜などの生長の観察を楽しんでいます。

植物の栽培では、栽培を通してさまざまな活動を発展的に行うことを通して、深い学びを創ることができると考えています。生長に適する環境づくりや管理の仕方を知ったり、また、収穫した作物の活用法を考えることを通して、それぞれの作物の特徴をつかむことができたりします。例えば、米作りをしたあと、脱穀後に残った稲わらをごみとして捨ててしまおうとする場面を見ることがあるのですが、何ていうことを！稲には、捨てることなどないのです。そんな学びも、学校の活動としてとても大切だと思っています。

子どもたちが楽しみにしていた全校遠足は、予定していた日程から延期となり、本日31日の実施予定に変更しました。全校遠足では、全校児童を30グループの異学年で構成する「しんめ班」に分かれ、各グループで協力して活動を行います。全校遠足後も、このしんめ班での集団あそびや縦割り集会を行うなど、本校の特色ある活動の軸となる取組です。こういったさまざまな体験活動を通して、今までコロナ禍で思うようにできなかった体験的な活動を行い、豊かな教育活動を展開できるよう、取り組んでいけるようにしていきたいと考えています。



「いい土になあれ」みんなで代かき
(5年生)